資料１

福井県立美術館

福井県立美術館のあり方および基本的方向性

令和７年３月

Ⅰ. リニューアルの方向性

ⅰ　現状把握と課題整理

福井県立美術館は1977年に開館し、半世紀を迎えようとしています。高度成長期の社会と並走しながら、県民に寄り添い、県の文化構築に貢献してきました。

美術館という建築類型も社会の動向に同調し、その姿が確立されてきましたが、近年の成熟期における「新しい社会における美術館のあり方」については、これまでの方法論や前例が適用できないといった混迷期にあります。福井県立美術館の、これまで積み重ねてきた優れた実績を受け継ぎながら、未来の県文化構築のための、新しい「創造的な美術館」像が希求されています。

文化施設の価値はこれまで感覚的なものに委ねられてきましたが、近年の研究を通じて、その価値を「文化的」「社会的」「経済的」な効果を意識し、バランスよく構築することが求められるようになってきています。感性的に「想う」から、実践的に「行う」ことが求められる段階に来ています。

●文化施設の３つの評価軸

「文化的効果」
幸福感、鑑賞者の感受性の育み、自己の内省（自身の理解、他者への共感）、地域の創造的社会の育み、未来の構築

「社会的効果」
地域のアイデンティティの形成、地域社会への人々の関わりの活性化効果

「経済的効果」
施設単体の経済効果、地域経済への波及効果　イノベーション経済へのインパクト

福井県立美術館は、５０年間培ってきた地元との繋がりを大切にし、文化の歴史を保持・継承させていくといったこれまで通りの活動、いわゆる**「収集」「保存」「展示」「調査研究」「教育・普及」**を継続しながらも、新たな社会における美術館として、より多様な人々を招き入れ、**「包括的」「多様性」「持続可能性」「倫理的」「コミュニティの参加」「コミュニケーションを図る」「教育、愉しみ、省察、知識共有の為の、様々な経験を提供する場」**へと、リニューアルする必要性が高まってきています。

■ ICOM（国際博物館会議）　MUSEUMの定義（２０２２年 プラハ大会）
「美術館・博物館は、有形及び無形の遺産を研究、収集、保存、解釈、展示する、社会のための非営利の常設機関である。館は一般に公開され、誰もが利用でき、包摂的であって、多様性と持続可能性を育む。倫理的かつ専門性をもってコミュニケーションを図り、コミュニティの参加とともに博物館は活動し、教育、愉しみ、省察と知識共有のための様々な経験を提供する場である。」

Ⅰ. リニューアルの方向性

i - ア　敷地・施設の現状把握

＜本館棟＞
敷地の地名地番：福井市文京３丁目 16−1
敷地面積：6540.71 ㎡
建ぺい率の上限：70%
容積率の上限：200%

	新築時	増築1回目	増築2回目
確認年月日・番号	S51.4.12　第0129号	S60.8.12　第0933号	H3.6.13　第0470号
検査年月日・番号	記録なし	S61.9.29　第0013号	H4.3.21　第31号
建築面積　A　（㎡）	2798.02	3486.63（688.61㎡の増築）	3672.37（185.74㎡の増築）
延べ面積　B　（㎡）	4566.67	5788.14（1221.47㎡の増築）	6148.5（360.36㎡の増築）
建ぺい率　C＝A／敷地面積×100（%）	42.78%	53.31%	56.15%　70%以下　OK
容積率　D＝B／敷地面積×100（%）	69.82%	88.49%	94.00%　200%以下　OK

許容建築面積(70%)	4578.49	㎡	残り可能面積	906.12	㎡
許容延べ床面積(200%)	13,081.40	㎡	残り可能面積	6932.9	㎡

＜実技研修棟＞
敷地の地名地番：福井市文京３丁目 17-20
敷地面積：1288.63 ㎡
建ぺい率の上限：70%
容積率の上限：200%

	新築時
確認年月日・番号	記録なし
検査年月日・番号	記録なし
建築面積　A　（㎡）	255.33
延べ面積　B　（㎡）	505.13
建ぺい率　C＝A／敷地面積×100（%）	19.81%　70%以下　OK
容積率　D＝B／敷地面積×100（%）	39.20%　200%以下　OK

許容建築面積(70%)	902.04	㎡	残り可能面積	646.71	㎡
許容延べ床面積(200%)	2,577.27	㎡	残り可能面積	2072.13	㎡

用途地域　第一種中高層住居専用地域　建蔽率　60%　→　角地緩和　70%　容積率　200%
防火指定　無　風致指定　無 桜橋線　12m　文教エリア　春山地区

法22条区域内

i - イ　既存施設における法的要件及び手続の整理

● 計画通知・検査の有無

現在のところ、実技研修棟の計画通知および検査済の確認ができていない。
計画にあたり、その規模・方策に応じて、計画の進行に併せて、所管部署との協議を行い進めていく必要がある。

●構造における耐震基準について

実技研修棟においては、新耐震基準が施工される１９８１年以前に竣工している。また本館は新耐震基準前の計画であるが耐震診断は行われている（A ランク）。これらの結果を踏まえながら、改修の計画に応じて、所管部署との協議を行い、必要とされる方策を施す必要がある。

●消防法における安全性能について

２つの施設とも、開館から長い年月を経ている。定期検査は行われているが、改善指示などもみられる。
今後、計画に応じて所管部署との協議を行いながら、安全性が確保された施設へ改修の必要がある。

●増改築および建替の可能性

本敷地は第一種中高層住居専用地域であるが、周囲の状況も鑑みて建築制限内容の図書館等に準ずるものと福井市建築指導課にて判断。よって本用途地域の法的可能面積においての増築および建替は可能で。
　本館は、新築時に佐藤武夫設計事務所（現　佐藤総合設計）が設計し、第 21 回 BCS 賞を受賞した建築物である。意匠権の存続期間は切れているものの、増改築にあたっては、建築物のデザインの核となっている部分が無断で改変されてしまうことのないよう、設計者への配慮が望ましいため、事前に調整を行う必要がある。

i-イ　既存施設いおける法的要件及び手続の整理

H28.7 版

建築基準法にかかる **建築相談票**(参考様式)	※受付印欄	※

相談者 業者名・担当者	住所 [redacted]	TEL	[redacted]
	氏名　有限会社赤土善蔵アトリエ　赤土善蔵	FAX	[redacted]
相談物件	場所(地名地番又は住居表示)：　福井市文京 3 丁目 16-1　　文京 3 丁目 17-20		
	名称又は工事名称：　福井県立美術館及び研修棟		
相談敷地	用途地域：第一種中高層住居専用地域　　市街化区域/市街化調整区域の別：市街化区域 防火/準防火地域/法 22 条区域の別：　なし		
規模用途	主要用途：　美術館　　構造：RC　　造 階数：地下1階　地上 2 階　　延べ床面積：6,122.62 ㎡ 耐火建築物の種別：　耐火建築物　　高さ：12, 4　m　工事種別：　増改築		
相談概要	① 第一種中高層住居専用地域における美術館の増改築工事について		
	② 第一種中高層住居専用地域における美術館研修棟の建替について		

[相談条文(法第何条第何項についての相談か)]　建築基準法・福井県建築基準条例・その他(　　)
建築基準法第　48　条～56の 2　　都市計画法　9-1～12

[相談内容(質問及び相談の趣旨)]

昭和 51 に 4566. 67 ㎡で新築され昭和60年に増築 1221.47 ㎡その後平成 3 年にも 360. 36 ㎡の増築が行われ現在 6148.5 ㎡となっております。この間に用途地域は昭和47年 8 月15日付けでの第二種住居専用地域から平成8年 4 月 30 日に第一種中高層住居専用地域となってきた。
現況の用途地域においては第一種中高層住居専用地域においての建築制限内容では図書館等の建設は可能となっておりますが、図書館等とは何を指すのか確認出来ない為　ご教示お願いしたいと思うものである。又増築可能面積については平成5年 6 月 25 日付別表第2(へ)への適用と考えられるが、どの程度の増床まで出来るかについてもご教示願いたいと思います。

[相談内容の別添資料(配置図・平面図・立面図・断面図など相談の内容わかる図面を添付すること)]※付近見取り図は必須。
付近見取り図・配置図、平面図、立面図、入場者資料

[相談者の考え(相談者の法解釈・見解・根拠・参考文献)]

福井県立美術館は建設時から地域の環境に十分配慮され福井市の文京地区の一環をになっております。近隣には福井市立図書館、福井県立博物館、福井大学、藤島高校などが集まっていることで地域住民の方々も誇りに思う地域となっています。展覧会等が開催されているときも一時的集散の恐れはなく、駐車場も少ないため公共交通機関利用での来場者も多い。この美術館は地域社会教育的な利用活動の場として定着されています。よって建築制限内容での図書館等に準ずるものであると考える。他の地域においても地方の美術館は図書館等に含まれるものとして解釈し扱われることも多く　この地域においても美術館の増改築は可能であると思う

※上記欄はすべて記入をお願いいたします。

※別添資料はご返却致しませんので、重要書類はコピーなどを提出してください。
回答後に利用状況・形状の変更等があった場合など、回答内容と実際の取扱いが変わる場合がございます。
回答は福井市建築指導課の見解であり、他の行政庁や指定確認検査機関の見解を拘束するものではありません。

ⅱ施設の整備及び運営の基本方針

■コンセプト　イメージ
花に愛される福井県立美術館
若い人たちの心に花が咲く

ⅱ-ア 当美術館が目指すべき方向性

人の心を癒し、感動や気づきを与える美術館

美術館とは、「人の心を癒す教会」や「心の病院」といわれています。人々が館に集い、感動し、気づきを得て、明日の活力を享受するといった、本来的な役割を次世代へと受け継いでいきます。

郷土や世界の芸術文化に触れ合う美術館

近世から現代までの国際的に評価の高い福井ゆかりの美術作家の作品（主に近世・近代日本画、現代美術）を核に収集・展覧し、県内美術館のリーダーとして地域の人々及び国内外の人々の興味関心を引く展覧会・活動を遂行していきます。

社会に開かれ、多様なひとびとを招き入れる美術館

2022 年の国際博物館会議では、美術館の基本的な使命である「収集」「保存」「展示」「調査研究」「普及」に「包括的」「多様性」「持続可能性」「倫理的」「コミュニティー」等といった言葉が加えられ、社会に開いた新しいあり方が示されました。本リニューアルにおいてそのような社会の要請に追従するこれからの美術館像を目指していきます。

地域に貢献し、県の未来を構築する美術館

美術文化を媒体として、地域の美術人・愛好家、クリエイター、教育者・学生、メディアや企業などを紡ぎ、地域の文化土壌を育むとともに、県の未来の創造していく種を植えていくような活動を目指します。新たな社会の為の創造性を構築する基盤を作っていきます。

■リニューアルの期待を表徴する外観（案）

新しさと親しみやすさを兼ね備えたデザインを採用し、美術館の新たな役割を表現する外観を構築。
街に開かれた空間として、多様な活動があふれる場所を目指す。
カフェやミュージアムショップなど、気軽に立ち寄れる施設を配置し、
訪れる人々に親しみを感じてもらえる美術館を創出する。

ii-イ 施設整備および運営の基本方針

■管理・運営の構成図（案）

新しい体制の可能性

新しい活動を無理なく実践できるよう、柔軟かつ効率的に対応できる組織を構築していきます。
新しい活動を推進するには、組織体制も更新が不可欠となりますが、そのやり方については、引き続き多くの調査および協議が必要です。これまでの協議では、質の高い展示･研究を安定的に行うために、美術館の核となる展示企画・研究・収集・保存は、これまで通り事業の独立性が保たれた形で学芸部門が担い、美術館を社会に開くという新しい要素は、アートコミュニケーションを担う部門が担い、それらは互いに協力しながら美術館運営を推進していくことが有用とされています。

ii 求められる機能と役割、具体的な事業展開

各ゾーンごとに必要な修繕を行うとともに、適切な改修指針を設ける

●展示ゾーン　展示室、貸展示室、講堂

美術館活動の中核を担う重要な部分であるため、最新の仕様にアップデートし、多様な活動に対応できる空間として整備する。

●一般来場ゾーン　エントランスロビー、研修室、キッズ&ロッカールーム等

美術館の新しい役割や姿を考慮し、一般来場ゾーンを再構築する。ユニバーサルデザインを積極的に推進し、すべての利用者に配慮した空間とする。

●管理・運営ゾーン　事務室、学芸員室、応接室、書庫、倉庫

必要箇所を修繕するとともに、多様な活動を支えるための設備を整備する。

●収蔵ゾーン　収蔵庫、収蔵庫前

収蔵庫空間内の効率化および新規収蔵スペースを確保する。

●機械室ゾーン　ボイラー室（地下）、電気空調等機械室、エレベーター

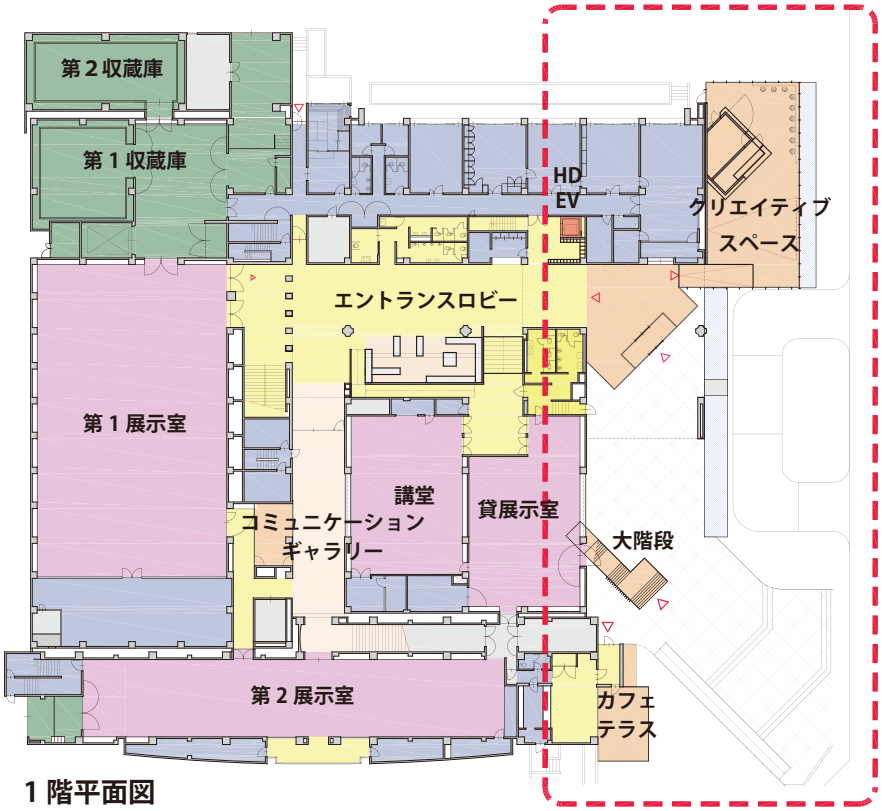
作品を適切に管理できる環境を維持しつつ、省エネに配慮した空調設備に刷新する。
既に不具合がみられる設備やメンテナンスが難しい設備に関しては、長期的で安全な使用が可能な物へと更新する。

●クリエイティブゾーン　正面玄関導入部分からエントランスロビー、屋外展示場

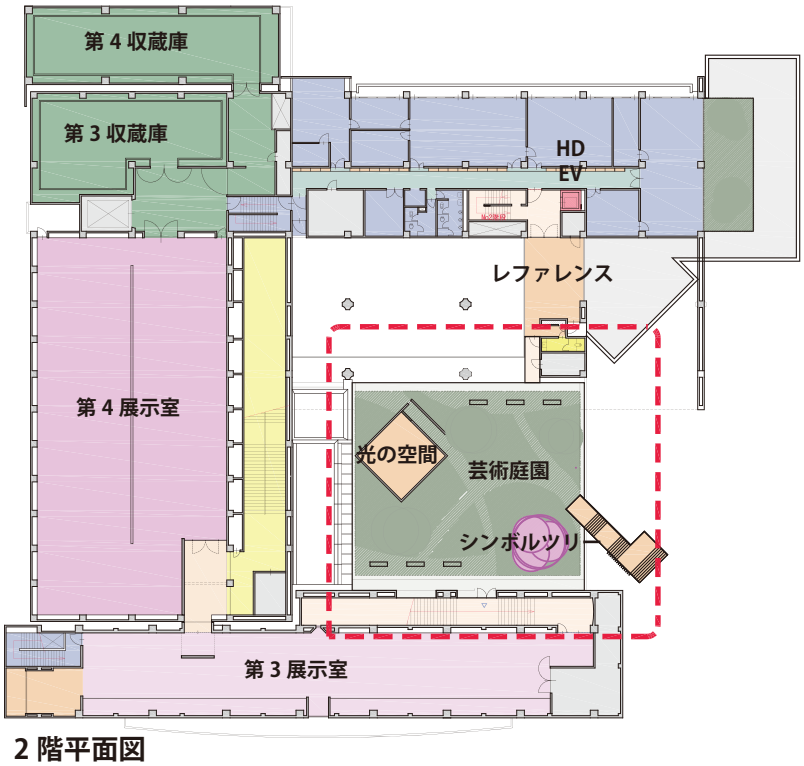
新しい美術館の「顔」となるシンボルとして機能し、日常的に人々を招き入れる外向きの空間を創出
ミュージアムショップ、喫茶室、多目的スペースを再構築し、多様な人々に開かれた場を提供する。

iii 諸室の構成・規模

本館平面図



1 階平面図



2 階平面図

展示ゾーン・講堂

一般来場ゾーン

管理・運営ゾーン

収蔵ゾーン

クリエイティブゾーン

新しい要素

実技研修棟　平面図

研修室

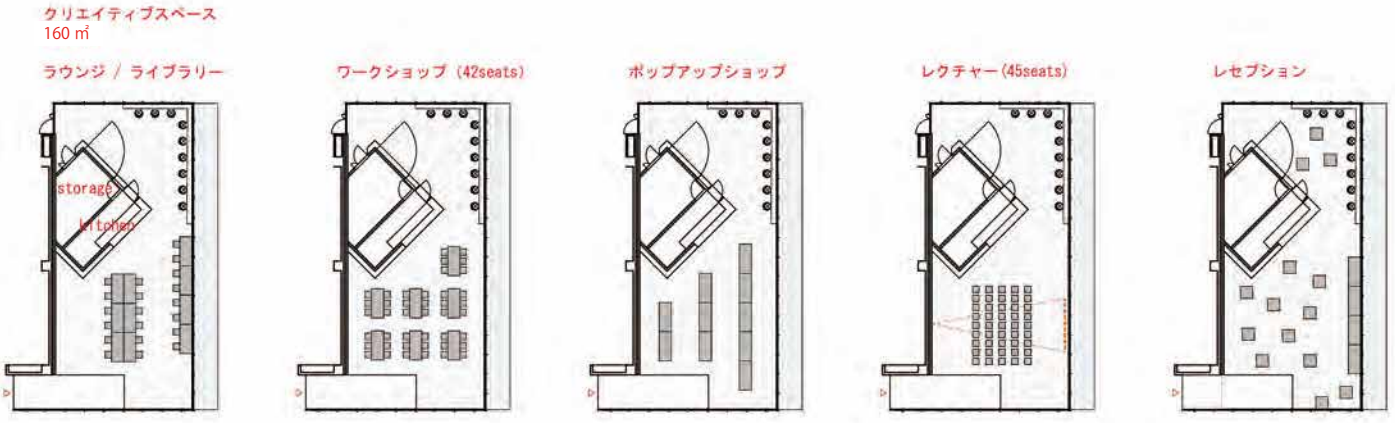
1 階平面図

研修室

2 階平面図

ⅲ 諸室の構成・規模

本館機能において新たに拡張される可能性のある要素　クリエイティブスペース



■クリエイティブスペース　使用例１

■クリエイティブスペース　使用例２

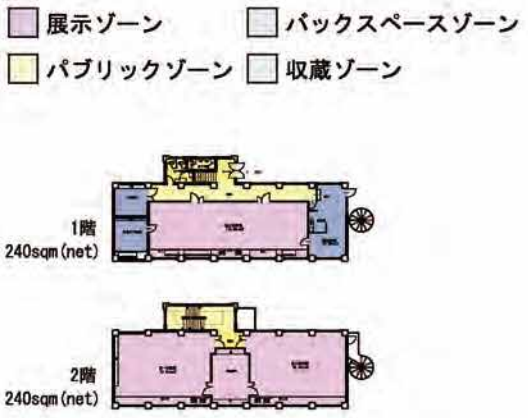
iii 諸室の構成・規模

実技研修棟の可能性のある増改築・建替

Stage 1

現況の状態を整理し、収納効率を図る。

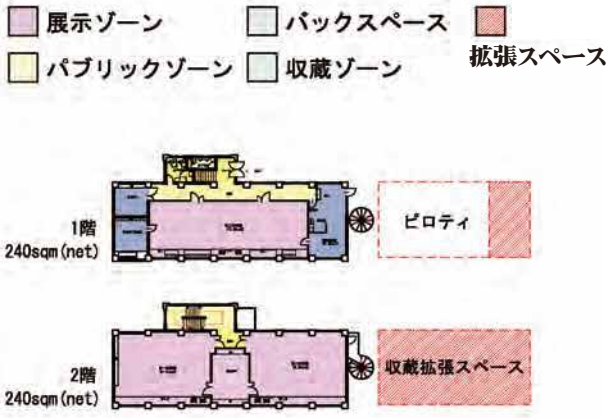
収蔵庫(前室含む)	642 ㎡ (内寸)	約10%
資料室	161 ㎡ (内寸)	約2.6%
リファレンス	45 ㎡ (内寸)	



Stage 2

増築を行い将来に備えた収蔵スペースを確保する。

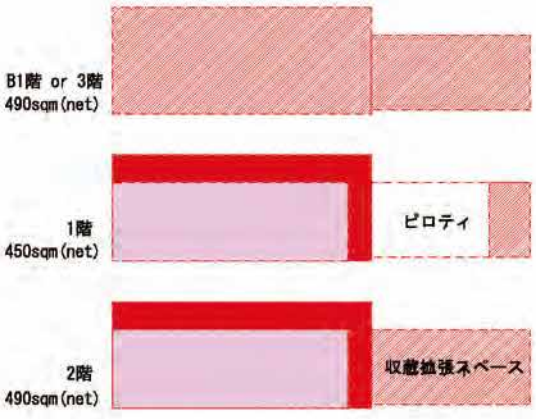
収蔵庫(前室含む)	642 ㎡ (内寸)	約10%
資料室	161 ㎡ (内寸)	約2.6%
リファレンス	45 ㎡ (内寸)	
拡張スペース	180 ㎡ (内寸)	約3%



Stage 3

新築を行い将来に備えた収蔵スペースを確保する。
必要に応じ、災害時備蓄倉庫なども備える。

収蔵庫(前室含む)	642 ㎡ (内寸)	約10%
資料室	161 ㎡ (内寸)	約2.6%
リファレンス	45 ㎡ (内寸)	
拡張スペース	900 ㎡ (内寸)	約15%



iv 施設改修計画

■建築外部工事

●外壁・床・外部仕上等
- ・リニューアルを表徴するために、一部の仕上の変更が望ましい。
- ・タイルの剥落、防水性能、躯体のひびなど多くの劣化がみられ、適切な修繕が必要。
- ・床の不陸がある部分については、防水性能など確認し、適切な修繕が必要。

●サッシュ
- ・漏水していいる部分については修繕が必要。
- ・環境性能に配慮した修繕が必要。

●屋上防水
- ・既に耐用年数が過ぎており、しっかりとした防水が必要。(特に展示室・収蔵庫等)
- ・エキスパンション部の、しっかりとした止水が必要。

●実技研修棟
- ・社会に対応するための新しい美術館機能と、既存美術館では十分ではない収蔵の問題を解決する場所としての検討を行いながら、その修繕方法が決定される。併せて、建築の耐震化や現行法規への適合も踏まえた計画が必要。

●クリエイティブゾーン
- ・新しい美術館の顔となるべくしつらえを引き続き検討する事が必要。
  リニュ―アル感の演出、誘引のための魅力向上を鑑みること。
- ・美術館において必要と思われる新たな機能等をよく協議・検討し計画すること。
- ・可能性・実現性について検討・協議を行うこと。
- ・環境問題に配慮したものとすること。
- ・2階屋外展示場も力のあるスペースとなるようにする。

■建築構造工事
- ・全体の構造躯体を適切な修繕､必要に応じ補強を行う。研修棟についてはより強度な計画が必要となる。
- ・新たな改変を行う個所は、十分な強度を考慮した計画にする。

■建築設備工事

●電気設備
- ・現代の状況に準じた必要な処置を行うこと。警備システムの刷新が必要。
- ・展示室等、新しい仕様に準じた性能を有すること。
- ・展示照明、パブリックゾーンの照明については、機能、デザインをしっか　りと考慮したものとする。
- ・建築との取り合いをよく考慮・承認をうけた上で設置する事。
- ・照明のコンサルタントを入れ、全体的な計画を検討・承認を得る事。

●空調設備
- ・現代の状況に準じた必要な処置を行うこと。開館時からのボイラー空調は、電気式等への熱源更新も考えられる。
- ・新規諸室等も視野に入れた計画とすること。
- ・展示室等、新しい仕様に準じた性能を有すること。
- ・建築との取り合いをよく考慮・承認をうけた上で設置すること。

●給排水衛生設備
- ・現状を確認し、現代の状況に準じた必要な処置を行うこと。

●消防用設備
- ・消防定期指導に基づいて必要個所の改善が必要。内部プランの変更がある場合は協議が必要となる。

iv 施設改修計画

■建築内部工事

○展示ゾーン・講堂

・美術館活動の重要な部分であるために、最新の仕様へとアップデートする。
・多様な活動に追従できるようなしつらえとする。
・修繕が必要な部分については、適切な修繕を行う。

●一般展示室

・国宝・重文および国際的な巡回展の開催が可能となるような温湿度環境を実現するものとする。
・美術作品を照射するにふさわしい演色性。作品保護を考慮した照明器具を配置するものとする。
・多様な催しを可能とするしつらえとする。
・美術鑑賞に相応しいしつらえとする。
・壁面・天井においては、作品設置を考慮した耐荷重を考慮したしつらえとする。
・1 階 2 階もしくは展示室事に最良な展示空間を考慮すること。

●貸展示室

・美術作品を照射するにふさわしい演色性。作品保護を考慮した照明器具を配置するものとする。
・より多様な作品設置が可能なしつらえとする
・美術鑑賞に相応しいしつらえとする。
・壁面・天井においては、作品設置を考慮した耐荷重を考慮したしつらえとする。
・展示・復旧を簡便にするしつらえとする。

●講堂

・多様な演目に対応できるしつらえとする。(講演会、映画上映、楽器演奏、ワークショップ等)
・音響、照明および空調設備等を刷新すること。

■仕様詳細

・床、壁面および天井部に十分な耐荷重を要すること。
・多様な構成に対応できるように十分なフレキシビリティを考慮すること。
・1 階展示室　多様な展示に対応できるようにする。
・2 階展示室　多様な展示に対応しつつ、日本画展示についての考慮をすること。
・貸展示室　多様な展示に対応する。展示、復旧が簡便になるように検討する。
・可動壁、展示ケースの再検証。補修・再構築。
・空調設備の刷新
・壁面　塗装（全面寒冷紗　パテ 3 回　塗装 3 回）　＊下地　2 回　下地ガラスクロス
・床　フローリング
・貸展示室　ピクチャーレール

■推奨スペック（貸展示室については要協議）

・照明　ベース照明　LED　演色性 Ra 93 以上
・スポットライト　LED　演色性 Ra 93 以上
・温度　夏場 24℃　±1℃程度　　冬場 22℃　±1℃程度
・湿度　50%　±5% 程度
・気流　0.25m/s

iv 施設改修計画

■建築内部工事

〇管理・運営ゾーン

・修繕が必要な部分については、適切な修繕を行う。
・必要な機能・設備のヒアリング等を行った上で、就業しやすいつらえを達成すること。
・近年の多様な活動に追従できる設しつらえ、設備を備えること。
・新規の諸室が出てきた場合において、全体を再構成する。

〇収蔵ゾーン

・国文化財公開施設としての基準に準じたしつらえとすること。
・収蔵ヴォリュームを把握したうえで、適切な面積・構成を検討すること。

■仕様詳細

・恒温恒湿空調装置による 24 時間管理 。
・温度 20℃　湿度 55%（±5%）程度を保つ。
・収蔵庫内の環境は以下の内容に配慮する 。
・気密性（外部の影響を受けにくいこと）
・調湿性（停電等による空調設備の停止時でもある程度の期間一定の湿度が保 てること）
・安定性（経年変化の少ない安定した素材）
・安全性（収蔵品への影響がほとんどない素材）
・出入口（耐火性、防盗性、気密性を兼ね備えた扉）

・「文化財公開施設の計画に関する指針」に準ずる。
・「博物館の設置及び運営上望ましい基準」に準ずる。

・搬入スペース
・シャッターにより 6t 車が完全収納できる大きさを確保。
・屋内作業が可能な十分な広さの荷解室を確保。
・荷解室の床レベルは荷台レベルに合わせる。
・専用の搬入口とする。

〇一般来場ゾーン

・美術館の新しい役割、姿を考慮した一般ゾーンを再構築する。
・修繕が必要な部分については、適切な修繕を行う。
・増床の可能性・実現性について検討・協議すること。

〇クリエイティブゾーン

・新しい美術館の顔となるべくしつえを検討すること。（リニュ―アル感の演出、誘引のための魅力向上）
・必要と思われる新たな機能等を検討すること。
・可能性・実現性について検討・協議を行うこと。
・環境問題に配慮した提案とすること。
・2 階屋外展示場も検討の範囲とする。

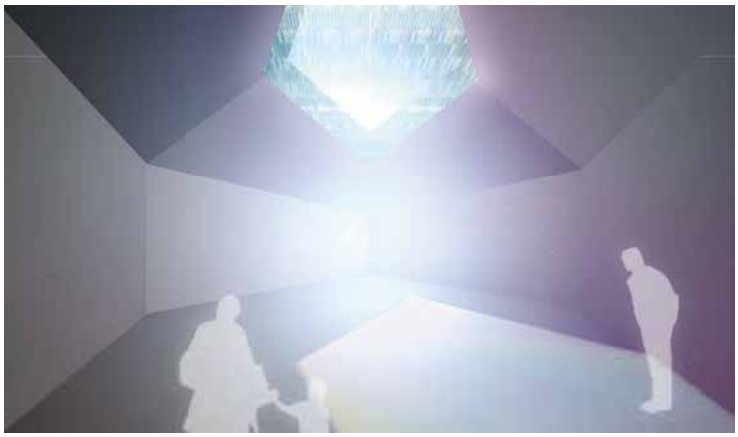
v 必要な基本機能（案）の整理

●２階屋外展示場　芸術庭園

美術館の２階屋外スペースは、地域と世界をつなぐ「開かれた場」として、人々が自然や文化に触れ、集う場を提供。「世界の花」をテーマとした庭園と中心としてのシンボルツリーは、多くの人々を引き寄せます。季節ごとに異なるイベントやアーチストによるインスタレーション（芸術展示）が楽しめるよう工夫し、クリスマスにはアートイルミネーション、七夕にはアート短冊等が飾られるなど、訪れるたびに新しい魅力を感じられる場を創出します。

●五感を開放する光の空間

２階屋外スペースに設置された光の空間は、福井の自然と、特殊ガラスの光のプリズムが生み出す唯一無二の空間です。刻一刻と移り変わる光の表情が訪れる人々に新たな発見と感動を与えます。この空間は、視覚だけでなく五感全体を開放し、静けさと調和がもたらす癒しを体験できる特別な場所です。ここにしかない魅力として、多くの人々を惹きつける新たな象徴を目指します。



●様々な活動が交錯するエントランスホール

エントランスホールは、訪れる人々が多様な要素を一望できる開放的な空間です。鑑賞体験の奥行きを広げる構造を持ち、セレモニーや展示イベントにも柔軟に対応できる多機能な場として設計されています。このホールは、訪れる人々を迎え入れるだけでなく、文化や交流が自然に交わる中心的な空間となります。

●福井の〈今〉が集まるミュージアムショップ

ミュージアムショップは、美術関連グッズの販売だけでなく、地元クリエイターが手がけたり選び出した工芸品やデザイン作品を通じて、福井の〈今〉を象徴する場となります。伝統的な工芸の技術と美しさを未来につなげる商品を展開し、美術館の新たな目玉として機能します。展示を目的に訪れない人々も足を運びたくなるような魅力的な空間を創出し、福井の文化と創造性を広く発信します。

v 必要な基本機能の整理

●多彩な催しを演出する展示室

展示室は、美術品の本質を深く感じ取れる洗練された空間であり、多彩な催しを可能にする柔軟なしつらえが特徴です。環境に優しい LED 照明や最新の空調設備を導入し、快適で持続可能な環境を提供します。多様な展示やイベントに対応できる現代的な設備が、訪れる人々に新たな体験をもたらします。

●地域と美術館との対話を実現するコミュニケーションギャラリー

コミュニケーションギャラリーは、美術館内部の活動や多彩な催しがあふれ出し、来館者の知的好奇心を刺激する空間です。この場は、美術館と地域の対話を可視化し、来館体験に奥行きをもたらします。地域の人々と美術館が共に創り上げる新たな交流の場として、多くの発見と感動を提供します。

●歴史を紡ぎ未来を構築するアーカイブ

現在の倉庫や情報を分類・整理、効率化と可視化を進め、無理のない形でのアーカイブを構築を行う。収蔵スペースは、既存の整理と分類を行い、さらに未来のコレクションを見据えたスペース再編を検討。
実技研修棟には、美術資料図書室や実技講座が可能なラボを設置し、美術に関する調査・研究や教育活動の拠点として、より多角的な活動を実現する場を目指します。50 年にわたる活動を通して築き上げた北陸美術の重要なアーカイブとして機能していきます。

●創造性を育み地域と連携するクリエイティブスペース

クリエイティブスペースは、美術館の新たな機能として、多目的な催しや交流を実現する場です。このスペースは、美術館の新しい役割を補完し、地域との連携を深めながら創造性を育む拠点となります。多様な人々を引き寄せる開かれた空間として、文化と交流の可能性を広げます。

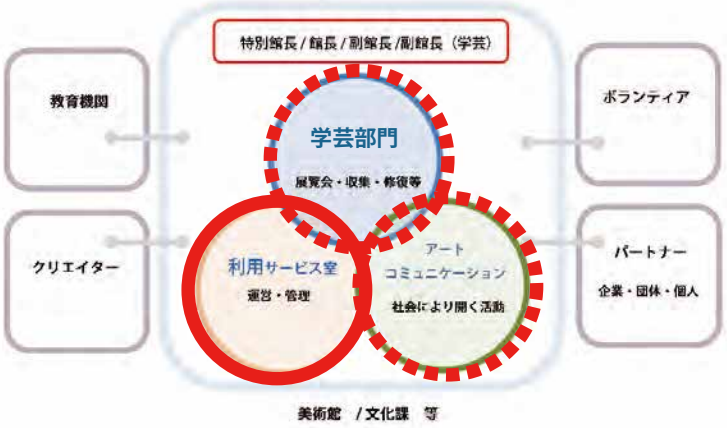
v 必要な基本機能の整理

＊新しい要素の管理・運営（案）

主担当　サポート

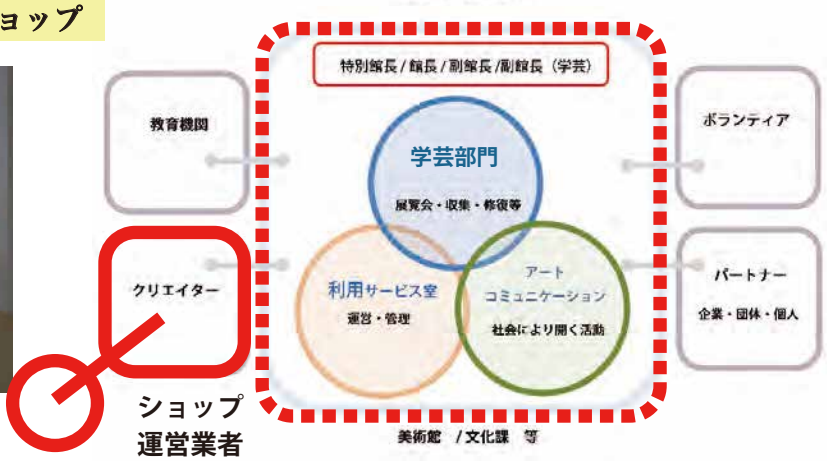
●２階屋外展示場　芸術庭園

●五感を開放する光の空間



●様々な活動が交錯するエントランスホール

●福井の〈今〉が集まるミュージアムショップ



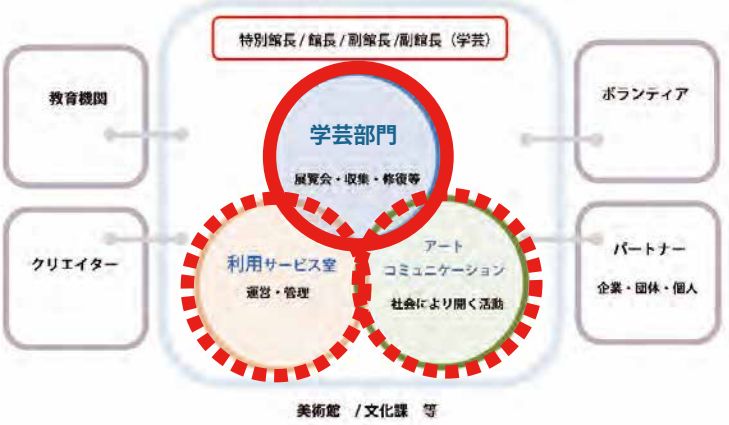
v 必要な基本機能の整理

＊新しい要素の管理・運営（案）

主担当　サポート

●多彩な催しを演出する展示室

●地域と美術館との対話を実現するコミュニケーションギャラリー



●歴史を紡ぎ未来を構築するアーカイブ

●創造性を育み地域と連携するクリエイティブスペース

i 概算事業費

＊金額は想定額であり、実行金額を保証するものではありません。

本館	1977		6,628	㎡	想定金額			
case1 中規模の施設の刷新			7,200	㎡	5,040,000,000	700,000	㎡/円	要　物価補正額　20%程度
case2 小規模の施設の刷新			7,000	㎡	3,150,000,000	450,000	㎡/円	要　物価補正額　20%程度
case3 修繕			6,628	㎡	1,988,325,000	300,000	㎡/円	要　物価補正額　20%程度
実技研修棟	1977		6,628	㎡				
case1 建替	建替		750	㎡	375,000,000	500,000	㎡/円	要　物価補正額　20%程度
case2 改修	改修		509	㎡	203,420,000	400,000	㎡/円	要　物価補正額　20%程度

2000年以降に大規模改修をこなった主要な美術館の工事金額参照

美術館名	開館年	改修年	面積(改修面積)		工事額	㎡単価		
大規模改修								
北海道立近代美術館	1977	現在改修検討中	9,160	㎡	7,500,000,000	818,777	㎡/円	
	1977	現在改修検討中	9,160	㎡	16,500,000,000	1,801,310	㎡/円	
群馬県立近代美術館	1974	2007大規模改修	8,401	㎡	1,200,000,000	142,840	㎡/円	限定的改修　屋根防水別　外壁無
横浜美術館	1988	2017-2024	26,829	㎡	12,000,000,000	447,277	㎡/円	
大阪市立美術館	1936	2022-2025	12,716	㎡	7,000,000,000	550,488	㎡/円	
京都京セラ美術館	1933	2017-2020	10,495	㎡	13,000,000,000	1,238,685	㎡/円	
世田谷美術館	1986	2011-2012	8,223	㎡	600,000,000	72,966	㎡/円	限定的改修
広島市現代美術館	1989	2020-2023	9,291	㎡	2,400,000,000	258,314	㎡/円	
岐阜県美術館	1982	2018-2019	7,758	㎡	2,500,000,000	322,248	㎡/円	
松本市美術館	2001	2021-2022	7,741	㎡	1,900,000,000	245,446	㎡/円	
宮城県立美術館	1981	2023-2025	15,120	㎡	5,000,000,000	330,688	㎡/円	基本方針で60億　落札金額10億
東京都美術館	1975	2010-2012	30,000	㎡	11,000,000,000	366,667	㎡/円	
国立近代美術館	1962	2002	14,439	㎡	7,200,000,000	498,649	㎡/円	増改築
美術館大規模改修　平均工事単価						545,720	㎡/円	
新築								
練馬区立美術館	2028		8,667	㎡	9,300,000,000	1,073,036	㎡/円	
鳥取県立美術館	2025		10,598	㎡	9,700,000,000	915,267	㎡/円	
八戸市美術館	2022		4,844	㎡	3,600,000,000	743,187	㎡/円	
富山県美術館	2017		14,990	㎡	8,200,000,000	547,031	㎡/円	
金沢21世紀美術館	2004		17,363	㎡	8,400,000,000	483,787	㎡/円	
美術館新築　平均工事単価						752,462	㎡/円	

ii 事業スケジュール

R6	R7	R8	R9	R10	R11以降
・基本的方向性まとめ →	・基本計画 →	・基本設計 →	・実施設計 →	・本格施工 →	・リニューアルオープン
	・作品購入の検討、作品の購入 →				調整・枯らし・展示
・県立美術館　あり方検討					

＊枯らし期間については、工事の内容と施設の方針により設定されます。

iii 事業者選定手法

設計者の選定方式は、競争入札、事業者協議方式（コンペティション方式）、企画提案方式（プロポーザル方式）などがあり、それぞれの特徴を十分協議の上、、有識者も含め協議を行う必要があります。

●競争入札方式
・設計料（金額）を入札で競わせて設計者を選定する方式。設計をだれが行っても結果の同一性が保証される場合に有効。

●設計協議方式（コンペティション方式）
・設計案を選ぶ方式。具体的な案を見てから選ぶことができる一方、選定後に大きな変更が困難。

●企画提案方式（プロポーザル方式）
・設計者（事業者）を選ぶ方式。設計者の提案内容等を評価。設計段階で多様な意見を柔軟に反映することが可能。

有識者とのあり方検討会の開催状況

令和６年７月から令和７年１月にかけて、監修およびとりまとめ１名と学識有識者５名から構成される有識者委員会で「福井県立美術館　あり方検討会」を開催し、その協議をもとにリニューアルの方向性（案）を作成し、これをもとに「福井県立美術館　基本的方向性（案）」を定めるものです。有識者による検討会は下記の通り執り行われました。

あり方検討会　構成メンバー

外部委員（アドバイザー等）

吉野　弘	吉野弘建築設計事務所代表	＊監修　および　とりまとめ
赤土　善蔵	福井県美術の会会長	
戸田　正寿	アートディレクター	
神野　義治	福井県文化財保護審議会委員	
拝戸　雅彦	前愛知県美術館館長	
渡部　葉子	慶応義塾大学アート・センター教授	

福井県立美術館

福井県交流文化部文化・スポーツ局文化課

あり方検討会

第１回あり方検討会　令和６年８月１３日

・各委員のご紹介　リニューアルについての考え方
・美術館現状確認
・初見による意見交換
・今後の議題の確認

第２回あり方検討会　令和６年９月２４日

・フクイアートリサーチのご報告
・リニューアルの方向性について
・新しい美術館に必要とされるもの
・美術館の顔、シンボルの考え方

第３回あり方検討会　令和６年１１月２０日

・増改築の法的可能性について
・コンセプトの整理
・地域に開かれた新しい機能
・収蔵について
・運営について

第４回あり方検討会　令和７年１月31日

・新しいソフトの可能性
・地域との連携について
・組織について
・各委員による総括